

平成19年度 第1回 6月 音羽コミュニティ便り

京都市立音羽小学校
学校運営協議会
会長 河村 政次
学校長 田上 恭史

紫陽花の花が6月の雨に映える頃となりました。
音羽小学校の学校運営協議会は、昨年度の10月3日に発足し、理事会と6つの推進委員会を設けて取組をはじめたところです。今年度は2年目を迎え、第1回目の学校運営協議会の推進委員会を6月14日に行いました。

参加人数65名(教職員22名・PTA27名・地域16名)の参加を得て、昨年度の取組の振り返りをもとに、今年度の取組について検討会を行いました。保護者・地域・学校の3者の立場から積極的な意見を交流することができました。

第1回目のコミュニティ便りとして、理事会及びそれぞれの推進委員会で話し合われた内容と今後の動きをお知らせいたします。

理事会 ~学校評価について話し合いました。~

7月中旬をめぐり、家庭・地域・学校・児童のそれぞれの立場から学校経営のあり方について共通項目をもとに評価する機会を持ちます。理事会では、その学校評価の共通項目について検討しました。検討した共通項目は、今年度学校長より出された学校経営方針に基づく『目指す子ども像～可能性にチャレンジする子ども～』(「人も物も大切に子ども」「考え学ぶ子ども」「豊かな心と健やかな体を育む子ども」)のねらいにあわせた内容になっています。家庭・地域・学校・児童が、評価した結果を分析し公表することを通して、それぞれの認識の違いを把握し、家庭・地域・学校の果たすべき役割を互いに振り返り確認し合う機会にしていこうとしています。

子どもたちの学校生活をより充実させるために学校評価にご協力ください。

各推進委員会の様子や取組

福祉・地域活動推進委員会 ～ふれあいを大切に～

昨年度は、学校の行事に推進委員として参加したという実感はあまりなかった。

今年度は、もっと福祉・地域活動推進委員会として協力してやっていきたい。これから、どのように携わっていったらよいかを具体的に考えていきたい。

そのためには、どんな行事があるか、どのように関わっていったらよいか、具体的に情報発信していく方向で考えていきたい。

また、行事に参加するだけで終わりというのではなく、たとえば、七輪を使ってのおもち焼をした後、すぐに終りというのではなく、老人会から昔の話を聞くなどふれあいの時間も大切に活動を考えてほしい。



安全教育推進委員会 ～みんなで守る。子どもの安全～

現在、安全を守るために現在取り組んでいることを説明するのに終始した。子ども110番の家への関心を高めるためにお礼あいさつ回りをやろうと話し合った。子ども110番の家の見直しや通学路の再確認をしていきたい。安全マップ作りにも関連付けていきたい。

現状の見守り隊については、6月中に再編をしており、昨年度よりその人数は、増えている。

地域の交通環境の変化を児童に体験してもらうチャンスとしてトンネル工事の見学を計画している。



読書活動推進委員会 ～ボランティア活動を活発に～

現在20名ほどのボランティアが、図書室で活動している。しかし、仕事の内容が共通理解できているとはいえない。一度、ボランティアが一堂に会する機会を設定し、どのような図書室にしていけばよいかを話し合いたい。

また、読書活動推進委員会には、地域の方で推進委員がいない。図書室の読み聞かせをしてやろうと欲求されている地域の方もおられると聞いている。婦人会の方に読書活動推進委員会に入っていただくことで、地域の方の中でもボランティアをしてやろうと思っただいてくださっている方が、気軽に参加できるような体制を整えたい。

また、地域の方で六地藏祭りの内容を児童作品として出版されている方がおられる。そのような方をお呼びして話を聞く機会も設けるとよい。

環境教育推進委員会 ～環境に敏感な子どもを育てよう～

学校での取組は、「花いっぱい活動」としてプランターで草花を育てたり、環境教育の一環として「緑のカーテン」という活動に取り組んだりする。(2校舎の壁にネットを張り、朝顔をはわせ、暑さから守る活動を行う。)また、5年生は総合的な学習の時間に地球温暖化を取り上げ、自分たちができることを探る学習をしていく。

地域では、廃油の回収を行っている。この廃油は、市バスのディーゼルに活用される。子どもたちには菜種を栽培することで菜種から油になる過程を紹介している。

また、ごみの分別収集にも関心を高めていきたい。



人権国際理解教育推進委員会 ～子どもたちの人権感覚を磨こう～

今年度の人権研修や英語の授業について説明を行った。6月に人権としては、河口さんという障害のある方をお呼びして、子どもたちの前で話をさせていただき、感想を交換をする活動を行ったことなどを報告した。人権学習については、小学校で培ったことが今後生きるのではないかという意見から、人権学習の大切さを確認しあった。

英語活動では、学生ボランティアなどの確保が大切だという話が出た。

また、民生委員の方より、子どもたちの安全を守り、人権感覚を磨くためにも、あいさつなど大人からの声かけが大切であるという意見をいただいた。

国際理解として外国の文化に触れるためにも、子どもたちに話をして下さる外国人の方を積極的に探していきたいと話合った。

チャレンジ活動推進委員会 ～チャレンジ精神を育てたい～

まず、学校から今年の計画の説明を行った。今年度もいくつかの取組を計画し、昨年度に引き続き算数や理科に関係する活動、「万華鏡作り」や「水族館見学」、「算数・数学検定」など、体験したり挑戦したりする取組を盛りだくさん準備している。

また、今年度は、国語にも力を入れ漢字検定にも挑戦したり漢字チャレンジ教室も開いたりしていく。

学校からの報告を受けて、地域の推進委員の方より「チャレンジ活動には、挑戦しようという一部の子どもしか参加できないので、全員参加ができるものも取り組んでほしい。」という意見もいただいた。

また、体育的なものにも挑戦できるように協力してほしいという依頼も行った。